

積み重ねられたもの

NPO 法人の申請を機に、HFDJ も HFI として、新しい歩みを進めていくことになる。しかし、全くゼロからの歩みではない。すでに幾ばくでも蓄積したものがあつた。その上に積み重ねていけばいいのだろう。

そんなことを考えながら、ある教会の建設に関わつた時のことを思い出した。もうすでに 20 年程の歩みを重ねてきた教会ではあつたが、信徒数は一桁となり、会堂もない状態であつた。これをどのように建て直していくのかと思つたが、すでに土地があつた。そこには、かつてはプレハブの会堂が建つていたのだが、もはや役立ちそうもなく、取り壊され更地になつていた。信徒たちが力を合わせて、モダンな新会堂を建て上げ、新しい歩みをスタートさせたのである。

もう一つの教会を建てあげた経験を振り返りながら、同じ規模の事業でありながら、そこに差を感じる思いがあつた。ゼロから建てあげる事業と、何かの土台の上で建て上げるその差であつた。すでに、歴史があり、積み重ねがあるということは、たとえそれが小さなものに思つても、ゼロからやることとは大違ひである、深く教へられた。子どもの視線は低く、遠くを見通せないとしても、父親の肩に乗れば、子どもの視線は高くなり、遠くを見渡せるのと同じである。

またいつであつたか、幼稚園経営を止めて、福祉施設を設立した、ある教会を訪れたことがあつた。かつて



ブランコやのぼり棒など、幼稚園の施設があつた土地は、綺麗に整地され、これからそこに、福祉作業所が建つのだという。その歴史をずっと背負つてきた職員がぽつりと語つた。「のぼり棒のポール一つ買うお金を作り出すのに、大変な思いをした時代があつた。でも、壊すのはあつという間ですね。」新しい事業を展開する今を作り出した、人知れぬ大変な苦勞があつた、そんなことを考えさせられた。

いくつかの苦勞の上に、新しい働きが重ねられていく。それはゼロからとは違ひ、更なる可能性を秘めていく。もはや経験されることの無い苦勞の上に、別の苦勞が積み重ねられるということなのだろう。先の働きを感謝しつつ、さらに物事を先に推し進めていく、そんな苦勞を重ねたいものである。

(HFI 代表 福井 誠)

CONTENTS

- 巻頭言 「積み重ねられたもの」 (福井誠) …P.1
- 現地活動報告 フィリピン・ベトナム (田原寿子) …P.2~3
- 日本事務局から 活動報告 (事務局) …P.4
- スポンサーの広場 (坂戸バプテスト教会隣人の会 北国良子さん) …P.4
- クリスマス特集---クリスマスレターを書く …P.5
- クリスマス特集---フィリピンのクリスマス料理 ■ お知らせ …P.6